

「革マル翼賛団体」へどんどん八鉄体制



79.11.21
No. 281

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
〔鉄電〕二二五八・九・公衆電話(22)七二〇七

11・20「水本集会」に、

またも全国動員を強制!

動労「本部」がまた全国の組合員に「水本」の強制動員をかけた。全国的にまき起っている「本部」の不信のため、全国青年部と関東地評を軸として二〇〇〇名を越える組合員を東京に動員し、あわよくば、ついでに動労千葉の職場を数をたよりにあらして帰ろうという枯息にして反動的なたくらみをもって、一月二〇日〜二一日と二二日と全国の組合員を引きまわそうとしている。今日、革マル派以外には誰一人として見向きもしない、破産し切った「水本」運動に、これほどまでにのめりこみ、同時に動労千葉破壊にのみ「情熱」をそそぐ動労「本部」八鉄体制の中に、今日の動労のセクト的変質ノ私物化の実体がよく示されている。

破産した「水本」を、またかつぎ出すセクト性

われわれは、「本部」反動集団が、今や完全に破産し切った革マル派の「水本」デマ運動に、またもや全国の組合員を強制動員し、引きまわしていくことに激しい怒りをもって、断乎として弾劾しなければならぬ。

第一に、「私は革マルにだまされた。」と次々と署名を撤回して離れていった多くの文化人の姿を見るまでもなく、そもそも荒唐無稽なつくり話のデマであることがあばき出され、

第二に、動労内への「水本」の強引な持ち込みと異常なばかりののめり込みが、実は動労を全面的に党派私物化し、「革マル派を支持して、他の党派と対決させる」ためのセクト的踏み絵のためのものであったことが、その後の東大事件・茨城大事件あるいは、総評青年協会の衝突事件等における彼らの対応の中で暴露され、全国の動労組合員の大きな批判と方針撤回の声がまき上ったことの中にも明らかであった。

第三に、その当然の結果として、全国の良心的組合員の声を代表して、昨年の第34回津山大会、本年の第35回熊本大会とひきつづいて、全国十数地本・一〇〇名近い代議員による「全面修正動議」がつきつけられ、その結果、ついに日本労働運動史上類例を見ない「片肺・欠陥」八鉄体制」を内外にさらすという大破産状態におち入ったのである。以上の特徴的な事実経過を見ただけでも、今日いかに「水本」デマ運動自体が破産しているばかりか、動労の私物化・変質・孤立化・反動化が「水本」を通じて極点にまで達しているかは明白である。

とめどもなく変質をとげる動労ノ八鉄体制

発足以来、「労働組合らしいことは何一つやったことのない八鉄体制」が、この間やってきた事といえは一体何があるだろうか?

①発足早々の「申一号」で動労千葉弾圧を当局に要請するという異色ぶりを披ろう。

②千葉破壊の暴力集団詰所「千葉事務所」を数百万円投入して設置。極悪暴力分子を、ここから千葉破壊に出撃させる一方、革マル派によって「完全管理された」千葉は着々と再建されつつある。式のデマを全国むけにここから流し続ける。

③10・21国際反戦闘争を「日曜日の日勤者の昼休み中心の二九分間集会」と「日曜日の午前中、国電をのぞく減速A行動」なる明々白々のアリバイ方針で完全に放棄。

④動労千葉の10・22〜11・1の二波にわたる「反合・反戦・三里塚ジェット」の減産Bおよびストライキ闘争、を破壊するためのみ当分のおかぶをうばって全力で襲撃をかけて失敗。

⑤運動・路線で太刀うち出来ないの、裁判所に泣きついて「組合費だけでも」よこどりせんと画策。

⑥そして、今回の「水本」大動員。これのみである!

これまですでに「水本」動員に数千万円、「破壊オルグ」動員に一億数千円以上の組合財政をつぎこんできた動労「本部」が、あの「熊本大会方針」に「究明する会運動の主軸を担う」の通り、際限なく、革マル派翼賛団体化への坂をころがり落ちていく事はもはや明白である。

動労大改革なしとげ、三五万人体制合理化粉碎に立とう!

われわれが声を大にして警鐘乱打してきた事が今や現実となっている。

全国の闘う仲間の皆さん! 反合闘争さえ放棄し、「安定宣言」をもって当局の三五万人体制大合理化攻撃に卒先協力し、統制処分乱発ノ良心的組合員の口を封ずる一方で「水本」にのみ異常に全力傾注する、この完全に変質し切った「動労ノ八鉄体制」は今こそ闘う組合員の力で根底的に打倒され、変革されなければならない。共に前進しよう!